



上四

全十册曲亭主人編述

里見八犬傳第八輯

四上

上帙五册

四之卷上拾六丁

丁子屋平兵衛板



特別
44
600
4



南總里見八犬傳第八輯卷之四上套

東都

曲亭主人編次

第八十回

殘仇を斬る毛野莊介と戦ふ
傳來と評て小文吾兩雄を和ぐ

復説馬加廻六郎御出の落葉の刃を引提て兇兇を立出さず鎌倉裏見より
對面せし津守がけの寒兇いづく駭怖れし吐嗟と叫ぶと左右より若輩黒奴隸がて
會へ頂之扱て動せど登時御武声高きやをたて馬取今ゆゑ叫びて許
えんや然とも故なき海を首七知るゝわを先や末期の引導は説きよ所は
柳懐か這両刀の小條落葉と命けり世はまらぬ重宝之就中落葉の刀ハ
鏡江と莫邪と異なるぞをを人斬るとは時をどく四下る木葉不地を
あり因て落葉と命けり聲言の故管領家持氏主の名刀あり村雨を相似

奇特なり或のりて鉋一々としてこれに主君よとてあはれなる東成へ歸成の暗奈
ま鉋物よるまぬた東西あはれとて折料らとせえおれは舞のあま及ぶん在とも
右も世に毎来れて活る甲非文をた疋弱不具の乞巧よりありあまの身の業報回をきた
天罰や熟をたさるあはれなる悪業をたさるるは治も死れぬ一敷は殺を武士の悪善
たと曉らば謀く愚さよ覺朝極め合考せよ苦痛をたさるるをたさるるをたさるるを
身勝を並立を誇良よ諭せし丁田豊実の我より乞巧を對ひて寢見し海の果報
めそ目今主のこれと死と樂でも死なぬかたの命根と一刀を折るは是幸なりや況んや
も別々となり名高は落番末の名刀や苦痛も覺む往生せし後の世にま安かりん終んかき
鉋え々木葉成落と奇特のよ是這まの主君の御威は預りて祿の増とるべし今より
汝が與に法師と聚へ經と讀ま追薦佛き又まを満は富る龜の浮木も遇をた
大檀那よ連のりあはれなる造化のよのたはるる命を惜むる自物も迷と醒と曉と

理あり打合槌は胸を苦ら鎌倉寢見の戦はる膝まを搦て權且息と物れ魚め
項と鶴鶴々眼と睜り左見右見て刀林連はゆと憐れせりる宜ふ趣あり取て理
を歌知在も已り一切あはれなる約ま活物朝ま生れ々々死を誇り命の惜み
乞巧より殺するは殺すのあはれや身の野曝の家もあはれなる足踏もあはれなる苦
あれは業もあれはあ世の常情を日毎に推り竹杖の千載の業あはれなる業
夜を宿る松陰の中苗代まがとあはれなる業も知る諸台を傳情を因りあはれなる業
被けりかそろし刀の奇特を試えと命を取つ過るなり死して千歳と歴せん
より生る一ト目が復れりといふとあはれなる業や這里に往還の人を僕に右や左の袖に
の望りかぬ刀の内を御は捨り御を用へ宗旨の達し通しをもとらふも敢て御武に
膝し声詩まて這奴見大胆人居居西の羊と歌り今も命を惜めと助けを死
るわれあはれと觀念せよと置れは豊室の中亦冷笑ひ徳ま因果を咄めをもる悟れぬ

怒を復すやあむ時宜ま儘しては両刀を俺返さる許しせん然るも其醫者を遣て
心筋勒の出せはあまも口を去せん快返せと罵り又引よほせ毛野の力りと振返
面と對一佐と疾視て原未海も要ある奴へ年餘と推計する俺の怨敵の心と
この両刀を知らず心ばかり那親旗飲さるる身に分際をわけて慢ま
ん受てもえと鼓圍を果りと引抜く落葉の谷刀真額臨み敵の刀尖を莊介
の刀の鏢を受て彼此身を交も程のあせと又敷り大刀を復引外し拵合して上
一下と之を盡し勇士と勇士の別れは大刀响下々隙と委まらるる流を瀧の系風の
柳の三月月の左右を紊れて狂へも乱れぬ春の武術の精妙二龍雲間を闘ふ時兩金
鱗を空を如く兩虎深谷を爭新風貫毛と吹く似て透す疎齒のなかりけり浩気
こぞで路次あり草鞋を易とせよとらむも莊介は後れて香翰訪の頭まが毛逆
足れは誰か知るは莊介のみの賤い少年と戦ひ既し願なり小文吾の速走果敢と

こぞは手操後を飛ぶくは近着るそれ件少年の認識れぬ大坂毛野の云々竹鹿
いふまじり又奮然と軟一入声とめり立ちや大川生共め大坂生も且ぞ小文吾
あるを心し軟いあせと所せやと連りおひびびと林下にも毛野莊介の予蒸結ひ生活と
争ふ打るど大田と入る暇もあらず毛野の耳も掛けど斬之削り勢ひの止るやわづれ
こぞで小文吾のせん秘る心ももる四下とそれ茶店の備長長巻の務余件と是迄究竟と兩
て毛野の引拔るけり抗り目今毛野と莊介の熟結びる刃の上へ件の石をもち掛り
打しやあせの戦ひを制めけり交立時毛野の莊介の刃と石を布れても握持言ひ柄を
放さるる活とささ初々制めし人の小文吾のを知りし毛野の腹大田の腹
力と且感し且教びて絶て死れ小文吾主俺の仇と戦や果敢果敢と折れ
られし悪魔の影と向ふ小文吾含笑し且表し里田河の頭を別れ折れ舞急
あせとささるる和君のいふ和らけし是れ人か俺か過世あけ異姓の兄弟



大川社介と任と喚做も勇まていかなる縁のありとも俺面を願う怒と共刃で
敵めゆひかかると諭し替り又社介もうち對ひて喃大川生這少年の此具和殿の
報知と孝烈を雙の大阪生人情由知らぬと誓ひて止めり和睦志ぬの憐ら
後悔わんざと諭せ社介要頭て原未這少年の和殿噂ふ少少大坂生であ
はよほせる然るはれども這人東使主役をス平三人まゝ敷果しと俺重然西忍
奪取つ小塘隈のへ走去んとつ折其料りて這里まて那為伴と願ひ親た
止れ刀と他も渡さどと心の憐りのまあり和殿子由縁の大阪生ありける神
るぬ身の知るも一舉は雌雄を決せんとも先子挑戦ひんたりなると主階結合
毛野の疑ひを解を喃大田生少も東の存這人の名又面と認り又是和殿の
義兄弟深は好のめんともひもかかを争ひ初と推せり刀の所以のこ小條落葉の両
刀の原是千葉家の重玉のりと俺又の數れ折偷見ありと奪去りては皆
志も久くぬ今より石渡る千葉家とて一馬加廻し御旗を名告れが這兩
刃帯てま相伴ひの大塚も大石の家臣も丁田五郎豊まとの女も持て
極木村の脚を和使而御武豊まの那首の茶店に顔ひ折那御武の發語一けん
落葉の刀とて人と研どが四下ぬ木葉を落と奇特あり人のひを針とせん誘と
能て這頭とて鎌倉寔見と喚做さるを伴當引出させ斬葉より遊戯
吉又小舟(兒)心憐を那們が舉動某の初より樹蔭にまてる光景をみるは堪走
御武主役と三巻まゝ敷果しとあそ是不慮鎌倉寔見の仇と誓ひは似えぬも
御武の則馬加常武の田迹ありとあそひのひははれは俺親兄弟の寛家の餘類
左室の知れぬと大田生の首級を齎したるを語りてあれは豊まは逃下とて既
痛癢と看せり一個の奴隷共侶を那奴を逃下願ふ這個西刀の原千葉家の重
宝ありと堂下徳々の義ありと濟我の御所城へおかせとて俺又使節と奉りて路次

大川社介と任と喚做も勇まていかなる縁のありとも俺面を願う怒と共刃で
敵めゆひかかると諭し替り又社介もうち對ひて喃大川生這少年の此具和殿の
報知と孝烈を雙の大阪生人情由知らぬと誓ひて止めり和睦志ぬの憐ら
後悔わんざと諭せ社介要頭て原未這少年の和殿噂ふ少少大坂生であ
はよほせる然るはれども這人東使主役をス平三人まゝ敷果しと俺重然西忍
奪取つ小塘隈のへ走去んとつ折其料りて這里まて那為伴と願ひ親た
止れ刀と他も渡さどと心の憐りのまあり和殿子由縁の大阪生ありける神
るぬ身の知るも一舉は雌雄を決せんとも先子挑戦ひんたりなると主階結合
毛野の疑ひを解を喃大田生少も東の存這人の名又面と認り又是和殿の
義兄弟深は好のめんともひもかかを争ひ初と推せり刀の所以のこ小條落葉の両
刀の原是千葉家の重玉のりと俺又の數れ折偷見ありと奪去りては皆
志も久くぬ今より石渡る千葉家とて一馬加廻し御旗を名告れが這兩
刃帯てま相伴ひの大塚も大石の家臣も丁田五郎豊まとの女も持て
極木村の脚を和使而御武豊まの那首の茶店に顔ひ折那御武の發語一けん
落葉の刀とて人と研どが四下ぬ木葉を落と奇特あり人のひを針とせん誘と
能て這頭とて鎌倉寔見と喚做さるを伴當引出させ斬葉より遊戯
吉又小舟(兒)心憐を那們が舉動某の初より樹蔭にまてる光景をみるは堪走
御武主役と三巻まゝ敷果しとあそ是不慮鎌倉寔見の仇と誓ひは似えぬも
御武の則馬加常武の田迹ありとあそひのひははれは俺親兄弟の寛家の餘類
左室の知れぬと大田生の首級を齎したるを語りてあれは豊まは逃下とて既
痛癢と看せり一個の奴隷共侶を那奴を逃下願ふ這個西刀の原千葉家の重
宝ありと堂下徳々の義ありと濟我の御所城へおかせとて俺又使節と奉りて路次

くはー三這両刀を還さすも果も亦半来宿を獲其の二刀あり且もやえまんとらるる懐
抄つらきもや出るとは首と抜け玉散る新月の四下は輝く天晴名作鋭味肉とを
小文吾俱に感嘆さすけの當下老野に也首を直し控に斂めこれこそ力強敵を高征
はる足されけの外は大刀も亦銀鋼製衣胸甲胸盾も色に感め土中も隠し南の塘
隈の腰もあつてとひるるや身と起し去る件首を引提すまの解開をさすりし
小文吾急は推禁めり這里を那首へる近りゆる時と移さ人を知れて進退難
義子及べし獨り果ては川積れ走り這方へする程は行装せ一個の武士の小髪を
疾を肩する路傍は憩ひたり某と喚留めり哨切の武藏の大塚を大石敷の家臣
と請末るもあつて着てこれかかひ見せ没官せし俺腰刀ありはれは是る人
丁田畔五郎豊実と云ふ人と猜しるる勇ま声高き原米津川豊実大物越路より

あつたのち後を起し今まある大田小文吾を知りてと名告る駿く豊実の語り
みし身と起し刀を抜んとてけと抜も果て頭顱敷く落して件刀より復し
目易申光の頼る刀と屍骸の道邊に送して更さ走り大川に起着けり
大段生に再會せり件の豊実御武藏の舞具は知りぬ是れ又へと會復したる刀を
二大は示さる毛野の所へ集坪は入りし中が莊に感さるる大なるも顔を
折く通徹抄に計ひるる某とて家信の刀に大段生をゆり津衛の刀に御武の
屍骸の道邊に送る由に橋を那本は別を折備俺の両刀の再入をせしは這換日
便は就く返すまをせしはつる要るは東西を何時も留ん是れ亦御武の屍骸の道邊に送
指し那救野井が冷に抗て越路へ走りゆる人狼多し及ぶとも季秋桂下徐園裏
夏空の氣とるまは情深の箱戸はまり致し一熱いと身七併の三刀を引提すまを
起すも野を俱とせし小文吾とと喚禁めり一酷見者往還の跡施し是の時後

小文吾路
敷手豊實
とよみちのり



茶店の主人が、村長に報告せしめ、人衆を聚めて、且萩野井に後れず、今まが
其の、人又逃亡する伴、當の和君と語り、ある人、慢る那里へ、やむを危し、和君、這里と立
去り、甲斐の、さき、大川と、俱に、面を、隠し、其、頭を、過、旅、客の、飲、み、又
その、那、両、刀、を、送、り、指、し、趕、着、ん、這、差、さ、り、の、い、れ、ん、と、い、ふ、又、村、合、も、大、田、の、主、見
あり、ある、も、揃、え、り、要、る、快、退、し、俺、們、を、程、お、路、上、等、の、人、松、下、津、言、血、
巻、隠、し、て、や、目、目、各、れ、ら、れ、る、と、論、し、赤、毛、野、の、推、辞、難、く、信、じ、ら、れ、が、せ、ね、ん、と、い、ふ
甲斐の、さき、十、町、の内、に、幹、浄、知、の、等、人、那、里、に、赴、け、り、も、使、り、近、つ、を、快
引、返、し、の、心、と、後、の、屋、當、ら、毛、野、の、高、首、引、提、り、立、別、れ、り、諏、訪、の、湖、上、
つ、社、を、伏、拜、し、還、り、禱、り、又、後、と、今、も、ま、あ、り、袴、の、袂、に、袂、に、風、戦、が、樹、立、涼、し、青
柳、の、驛、路、投、り、を、い、け、り、介、程、に、井、介、小、文、吾、の、御、武、門、の、敷、き、る、息、遣、と、安、孝、時、排、徊、し、
緯、の、動、静、を、観、る、村、長、を、智、え、め、り、一、箇、も、聚、ひ、ま、を、程、遠、く、飯、里、人、と、

路、の、走、違、ひ、を、罵、諷、せ、り、ま、り、茶、店、の、公、羽、が、目、飯、と、て、稍、か、り、ま
の、折、御、武、主、従、の、在、死、の、嚴、と、初、り、ま、り、胆、を、潰、し、引、返、し、先、を、
輝、の、趣、を、祝、慶、し、告、宗、え、り、ま、り、終、走、去、り、と、い、ふ、這、里、に、諏、訪、の、神、領、を、
神、職、の、宿、所、へ、近、く、も、あ、ぬ、程、を、い、ふ、其、首、を、り、人、の、い、や、と、來、む、茶、店、の、主、人、も、
在、る、と、い、は、れ、り、倍、々、倍、々、と、い、ふ、其、推、り、を、那、両、刀、を、滑、り、御、武、の、屍、嚴、の、
息、遣、と、い、ふ、措、け、退、り、又、小、文、吾、も、其、や、俺、們、の、假、首、級、の、淵、六、穴、へ、
做、る、小、賊、の、頭、顛、る、れ、惜、む、に、い、ふ、の、あ、ぬ、も、俺、の、姓、名、を、冒、され、る、鼻、首、を、
この、一、時、の、權、也、せ、快、く、ぬ、所、あり、心、裏、取、り、と、い、ふ、と、い、ふ、小、文、吾、點、
頭、を、さ、り、亦、其、の、程、を、さ、り、掛、り、す、件、の、首、級、の、御、武、門、の、鐘、撞、は、和、置、り、て、
伊、豆、を、さ、り、の、れ、り、引、が、り、湖、水、を、論、め、り、走、り、か、遠、根、を、さ、り、や、快、と、い、ふ、が、
莊、介、安、孝、時、と、推、せ、り、首、級、を、奪、り、易、け、り、も、然、る、萩、野、井、三、郎、の、難、を、

嗚りたり。皆下萩野井主従に訴りぬ。支う。熟視れり。別人を。御武の
奴隷。や。鑑櫃之擔者。ひ。似見介と。嘔。做。の。人。腰。より。下。血。は。塗。れ。行。歩。不。便。不
又。え。の。二。郎。酷。く。奪。取。り。み。つ。た。故。を。向。ふ。似。見。介。才。身。を。起。上。主。老。御。武。が
御。下。丁。田。殿。上。兵。衛。謙。訪。の。湖。の。頭。る。茶。店。に。坐。時。憩。ひ。折。落。葉。の。力。を。弄。公
小。塘。隈。の。下。る。殿。定。見。之。御。斬。ま。ま。の。折。新。七。八。の。二。個。の。乞。見。を。生。り。出。す。俺
東。人。を。振。り。矢。度。二。刃。を。挑。取。り。坐。し。若。者。黒。三。平。及。丁。田。の。奴。隷。を。皆。斃。せ。し。め。ん
は。ひ。な。の。為。件。に。似。見。介。御。様。を。の。御。首。を。取。れ。只。遠。三。若。の。ま。あ。ま。田。殿。中。疾。を。肩。へ。て。逃。走。り
ゆ。程。が。在。下。亦。が。の。如。く。左。の。膝。を。破。れ。り。む。る。へ。も。わ。ら。れ。後。に。ま。の。筒。輩。が。や。見
と。ひ。の。幸。々。引。外。へ。逃。く。這。里。ま。ま。ま。れ。と。痛。疾。の。苦。痛。腫。脹。々。々。外。に。と。く
且。く。黒。目。を。覚。む。俺。は。な。り。今。ま。ち。些。先。の。程。馬。加。丁。田。兩。箇。の。伴。當。若。黨。奴。隷
及。九。名。後。に。ま。の。が。ら。連。ま。く。折。り。這。里。を。過。り。わ。ら。右。邊。へ。嘔。近。着。け。那。大。老。生。也

知。せ。身。の。介。把。を。憑。り。か。も。大。家。駭。謀。の。主。の。先。途。を。後。に。在。右。由。せん。這。首。居
居。れ。こ。ろ。り。り。勤。め。る。湖。水。の。か。へ。直。走。は。走。り。一。人。中。か。り。ま。ま。皆。を。往。還。稀。な
る。暮。暮。か。い。く。知。る。人。中。か。命。果。敢。多。く。な。り。あ。れ。極。せ。か。い。り。と。苦。ま。は。し
口。説。と。三。郎。ち。所。々。駭。呆。る。伴。當。と。遠。く。又。々。り。信。異。変。を。な。り。か。く。雲
時。も。猶。豫。と。い。ふ。俺。が。那。里。へ。快。急。件。の。谷。子。を。檢。索。せん。若。何。に。一。兩。各。這。似。見
介。と。肩。に。被。り。推。進。さ。り。跡。を。ま。ま。上。痛。疾。も。も。各。所。に。家。相。死。ぬ。へ。ん。と。い
も。這。が。東。人。の。不。覚。の。枉。死。の。證。据。を。取。る。危。の。命。を。勤。め。ね。と。吟。舟。を。飛。が。似。く。ふ
走。去。れ。一。個。の。若。者。黒。三。平。が。空。の。女。を。選。ぶ。も。餘。の。伴。は。後。れ。か。と。嘔。を。そ
ぞ。り。け。信。而。萩。野。井。三。郎。御。武。們。が。斃。れ。る。茶。店。の。邊。に。ま。ま。え。れ。既。に。地。方。の
役。人。謙。訪。の。祝。の。家。臣。黒。三。平。澤。の。村。長。下。謙。方。の。驛。長。を。此。彼。と。來。會。七。條。の
詮。議。區。々。に。集。ま。る。茶。店。の。主。人。と。御。武。豊。實。の。伴。當。の。後。に。這。里。ま。ま。の。子。那。願

末之實向也。茶店の主人の農夫あり。折り山田の耕作は園宅の男女暇可く。其の
る見より。権且店や。ちかや。折る山田の耕作は園宅の男女暇可く。其の
又御出。豊定は伴當。折り山田の耕作は園宅の男女暇可く。其の
その路違ひ。遅速あり。折り山田の耕作は園宅の男女暇可く。其の
迷惑の。折り山田の耕作は園宅の男女暇可く。其の
あやと。折り山田の耕作は園宅の男女暇可く。其の
れ。折り山田の耕作は園宅の男女暇可く。其の
折り山田の耕作は園宅の男女暇可く。其の
衆議を。折り山田の耕作は園宅の男女暇可く。其の
告る。折り山田の耕作は園宅の男女暇可く。其の
甚。折り山田の耕作は園宅の男女暇可く。其の
里見八犬傳第八輯卷之四上套終

天保三年壬辰年

春正月二十八日福了

若此重子集

筆福硯壽

大吉利市